

京都盆地の第四紀地質

こんな京都見物もいがかでしようか？



名水「亀の井」

松尾大社にあり、古くから酒の神様として信仰されています。京都盆地のまわりには活断層が多数あり、活断層に沿って地下水の湧き出し地点もまた沢山あります。



深沢池 (ふくろさいげ)

賀茂川によって運ばれてきた堆積物により、谷の出口がせき止められてできた池で、水性植物群が天然記念物に指定されています。深沢池団体研究グループのボーリング調査によると、およそ1万年前から湿地や池が存在していました。



地質図

藤村隆博氏著「京都の地質図説」(ナカニシヤ出版、1999)及び地質調査総合センター発行の「5万分の1地質図幅の京都西北部」(1999)、京都府北部(1998)、京都府西部(2005)に基づき、一部更新北及び修正して作成。地質図は国土庁発行の数値地質図(50000(地質図解))の一部を加工。



茶碗坂

かつて、そばの大阪屋敷から焼き物用の粘土をとっていた茶碗坂付近の風景。遠方に清水寺がみえます。



大阪層群の海成粘土層

海棲生物の生活した跡(生痕)や黄色い粉(硫酸)が特徴的です。京都盆地には約100~50万年前に何回か海が入ってきました。



名水

東山の山麓部には名水と呼ばれるおいしい地下水のわき出しや井戸が多くあります。伏見の酒もこの地下水を利用して作られました。大阪層群の砂礫層とその東から西へと盆地に向かう地層の微妙な傾きがもたらした恵みといえます。



大阪層群の砂礫層

約150万年前につもった厚い砂礫層で、同じような地層は城陽から琵琶湖の南方や奈良盆地北部まで分布しており、当時の宇治川を通り大量の砂や礫が京都盆地に運ばれて堆積したことがわかります。



低位段丘を構成する礫層

大阪層群を覆って、礫層が分布します。この礫層中には、ブロック状に火山灰層(始良Tn火山灰)が挟まれています。始良Tn火山灰は2万6千~2万9千年前頃に鹿児島湾で噴火した火山灰層で、この礫層がたまった年代を示します。



始良Tn火山灰

上段の写真は低位段丘礫層にブロック状に挟まれる礫子。下段の写真はその顕微鏡写真で、直径0.1~0.2mmの火山ガラスからできていることがわかります。

地質図の凡例

- 干拓地
- 現在の低地を構成する地層(沖積層)
- 緩やかな斜面を構成する砂礫層(扇状地堆積物)
- 1~3万年前頃にたまった砂礫層(低位段丘堆積物)
- 10万年前頃にたまった砂礫層(中位段丘堆積物)
- 15~30万年前頃にたまった砂礫層(高位段丘堆積物)
- 40~200万年前頃にたまった泥、砂、礫層(大阪層群)
- 岩盤1(花崗岩類)
- 岩盤2(超丹波帯及び丹波帯)
- 活断層(破線は伏在)